

イノシシの被害防止

出没させない集落づくり



イノシシの用心深い性質を利用した防護柵と集落環境整備の組み合わせで被害を防ぎましょう。被害が発生している地域では、加害個体を捕獲することも効果的です。



生態と分布

対策を考えるには イノシシをよく知る事が大切です

体長：120～150cm

体つきはずんぐりしています。毛はかたくて丈夫です。

体重：50～100kg

生まれたときは約500gですが、1歳で20～30kgにまで成長します。



臭覚は優れていますが、嫌いな臭いは特になく、木酢液やクレオソートの臭いも平気です。鼻先の力は強く、重さ60kgのものでも動かさず。



雑食で、木の実や根、ミミズなどを食べます。



高さ約1mの柵はジャンプして飛び越えてしまいます。

兵庫県ではほとんどのメスは1歳から子どもを産むことができます。子どもの数は平均4頭です。

本来、警戒心が強く、とても臆病です。人の気配に気づくと隠れたり逃げたりします。

色が濃いところほど多く生息しています



くくりわな1基を100日かけた時の捕獲頭数 (令和3年度ハンターアンケートより)

生息環境

平地から山地の広葉樹林にすんでいます。水場が近いところを好みます。



分布

県内に広く生息していますが、神戸・播磨地域や淡路島に多く分布しています。





被害状況

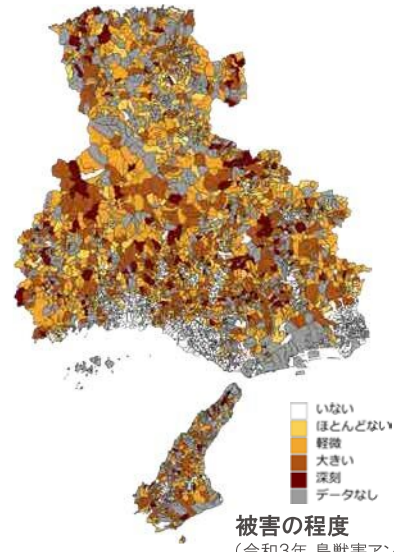
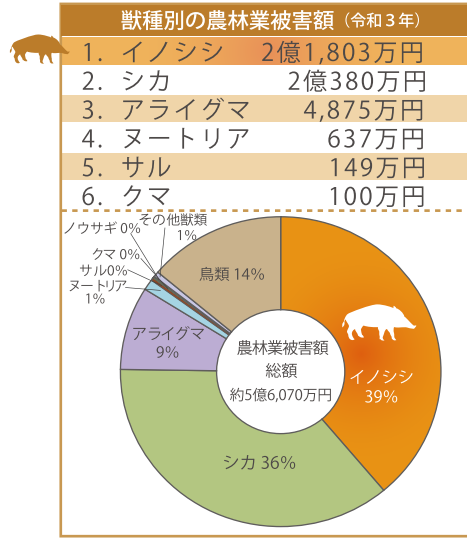
兵庫県における野生動物の農林業被害は、獣種別では、イノシシが最も多く、年間被害額は2.18億円にのぼります。被害作物は、水稲、イモ類、マメ類、タケノコ、果樹などです。被害地も広範囲に及んでいます。



踏み荒らされた水田



大豆の食害



被害対策

① イノシシを人里に誘引しない！

イノシシにとってエサとなるような農作物の収穫残さや廃棄果樹などを田畑の近くに放置することは、気づかぬうちに餌付けをしていることと同じです。埋めるなどして、適切に処理しましょう。

なくそう！

水稲の収穫後に生える「ひこばえ」

放棄果樹 野菜くずの投棄



畑に捨てられたクリ

② 出没させない環境整備！

イノシシは用心深い動物です。山と農地の間にある、からだを隠せるようなしげみをなくすと、農地への出没を減らせます。

なくそう！

山と農地間のしげみ

集落内のしげみ



刈り払い作業

③ 柵で囲って侵入防止！

金網柵や電気柵、トタン柵、ワイヤーメッシュ柵など、さまざまな柵があります。地面の状態にあわせて、適切に設置しましょう。設置後の点検や補修も重要です。

ポイント

設置後の柵の維持管理

イノシシが侵入する地際対策の強化

はいねない…



金網柵と下部の補強



防護柵をうまく使う 「個別柵」と「集落防護柵」

防護柵には、個人の田畑を囲う「個別柵」と、集落全体を囲う「集落柵」があります。個別柵は、設置や点検修理などが比較的簡単ですが、それぞれの農地を囲うので経費がかさみます。集落柵は、うまく設置すると効果を発揮しますが、見回りや点検修理に労力がかかるなどの問題があります。立地条件や費用、効果などを考えて、選びましょう。

トタン柵



- 長所**
 - ・設置費用が安い。廃材の利用が可能。
 - ・設置が容易。
- 短所**
 - ・耐久性が低い。
 - ・乗り越え等の侵入が防げない場合がある。

ポイント ・電気柵や金網柵と併用すると効果が高くなる。

ワイヤーメッシュ柵



忍び返し
上端を斜めに折り曲げる

- 長所**
 - ・比較的安価。
 - ・強度があり、耐久性が高い。
- 短所**
 - ・重いため運搬等に労力がかかる。

ポイント ・上端を忍び返しにすると効果的。
・網目は10cm以下。

金網柵



- 長所**
 - ・耐久性が高い。
- 短所**
 - ・設置費用が高い。
 - ・見回りや点検修理に労力がかかる。

ポイント ・高さは1.5m以上。網目は10cm以下。
・下部は埋めるか折り返して掘り起こしを防止。

電気柵

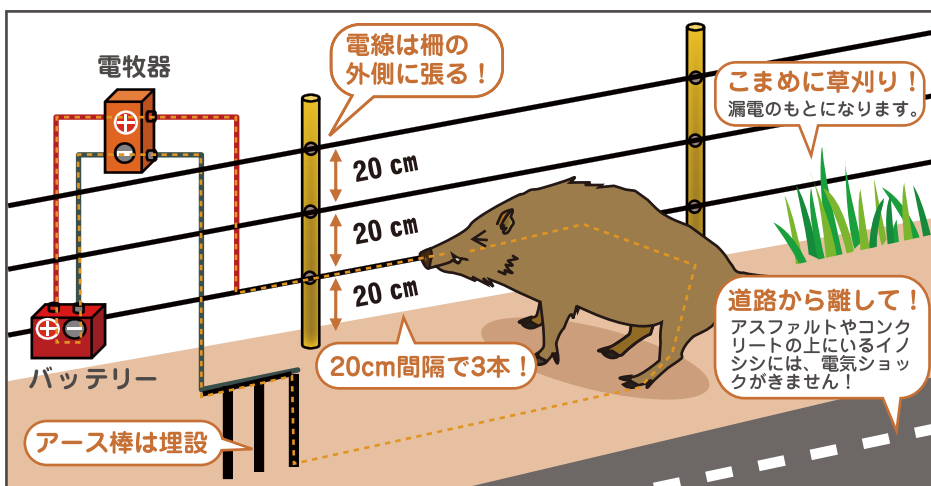


- 長所**
 - ・設置費用が比較的安い。
 - ・設置が容易。
- 短所**
 - ・こまめな電圧チェックや漏電防止の草刈りが必要。
 - ・電気を通しにくいアスファルト道などの近くには張れない。

ポイント ・電線は20cm間隔で3段張りが標準（下図）。

設置・管理のポイント

イノシシ対策で効果の高い電気柵の設置・管理ポイントを紹介します。



- ❗ 被害が出る前に張りましょう。
- ❗ アース棒は、地面にしっかり打ちこみましょう。
- ❗ 定期的に電圧をチェックし、5000V（ボルト）以上を保ちましょう。



電圧が数字でわかる電圧チェッカーが便利



集落みんなで対策

集落防護柵のメンテナンス

どんなに丈夫な柵でも、時間がたてばどこかにほころびや穴ができてシカ・イノシシに侵入されてしまうので、定期的な点検や補修が欠かせません。見回り当番を決めて特定の人に負担がかからないようにすることや補修のための積立をするなど、柵の点検や補修がうまく続けられるように、みんなで話し合しましょう。



エサ場として魅力のない集落づくり

集落内のシカ・イノシシのエサを減らしたり、無意識の餌づけをなくしたりするには、集落全体での取組が効果的です。また、林縁の見通しをよくしたり、集落内のやぶを刈り払うなど、シカ・イノシシにとって隠れる場所やエサのない集落づくりを進めましょう。



適切な捕獲 狩猟と有害捕獲による捕獲

イノシシは比較的狭い範囲を移動するので、継続的に被害が発生する場合は、その場所に現れる個体を捕獲することが有効な被害対策になります。ただし、捕獲だけで被害をなくすことはむずかしいので、集落環境整備や防護柵による対策もあわせて実施しましょう。

野生動物を捕獲する場合は、狩猟免許が必要であり、狩猟期間外は有害捕獲の許可が必要です。狩猟免許の取得についてはお近くの農林(水産)振興事務所に、また有害捕獲許可についてはお住まいの市町の担当者にお尋ねください。



被害農地付近の山に設置された箱ワナ



痕跡確認

効果的な被害対策や捕獲を行うためには、どの動物に荒らされているのかを知る必要があります。

足跡



ひづめのうしろに副蹄の跡が残ります。ただし、地面の状態によっては、跡がつかないことがあるので注意が必要です。

掘り起こし



田畑を掘り起こした跡があれば、イノシシのしわざです。

糞



だんご状の糞をします。

